

I 次の文章を読み、以下の問い(問1～問5)に答えなさい。

7世紀初頭、中国では唐王朝が成立し、隋を滅ぼして中国を統一した。この唐王朝は、西域をはじめとした各地との交易も盛んになり、都の長安は、世界を代表する国際都市として発展していった。

日本は、A 推古天皇の時代に隋王朝へと使節を派遣していたが、唐王朝に対して引き続き B 遣唐使を派遣した。この遣唐使は、894(寛平6)年の C の建議による派遣中止に至るまで十数回にわたって海をわたり、唐の政治・文化や文物を日本へと伝える役割を果たした。

しかし、造船や渡航技術は未だ十分ではなく、行き帰りの海上で遭難することも多かった。仏教の伝戒師を求めた日本からの懇願を受けて日本に渡ることを決意した鑑真も、船の難破などで五回も渡海に失敗した。しかし、753(天平勝宝5)年に遣唐使の帰国船に乗ってついに日本に渡ることに成功した。鑑真は平城京に入り、D 東大寺に迎えられた。大仏殿前に戒壇が設けられ、聖武太上天皇、光明皇太后、孝謙天皇ほか、多くの僧侶が鑑真から受戒した。後に鑑真は E 唐招提寺をつくり、そこで死去した。

問1 下線部Aに関して、推古天皇の治世の出来事について説明したのとして最も適切な記述を次のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 大臣であった藤原鎌足に代わって藤原王(厩戸皇子・聖德太子)が政權に参画した。
- b 建立された斑鳩寺(法隆寺)は、大王家や諸豪族の保護下から外れて独立した。
- c 憲法十七条と冠位十二階を制定して政治や儀礼制度を整えた。
- d 遣隋使が持参した国書に隋の煬帝が激怒したため、隋からの国使派遣は見送られた。

問2 下線部Bに関連して、入唐した人物に関して述べた次の文A・イについて、その正誤の組合せとして正しいものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- A 阿倍仲麻呂は、玄宗皇帝の信任を得て唐王朝に仕えたが、帰国出来ずに長安で死去した。
- イ 吉備真備は、唐からの帰国後、橘諸兄の政權に参画したが、藤原仲麻呂には冷遇された。

- a A 正 イ 正 b A 正 イ 誤
- c A 誤 イ 正 d A 誤 イ 誤

問3 空欄Cに入る人物として最も適切なものを次のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 菅原道真 b 小野妹子 c 藤原道長 d 犬上御田鍬

問4 下線部Dに関連して、大仏造立の詔を発した聖武天皇の治世の出来事について説明したのとして最も適切な記述を次のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 白村江の戦いの敗北後、大津に都を移し、そこで近江令を編纂させたとされる。
- b 藤原仲麻呂の専權が目立ち、これを除こうとした橘奈良麻呂が囚われて獄死した。
- c 道鏡が政治の実權を握り太政大臣禪師となるも、宇佐八幡神託事件の後、失脚した。
- d 藤原四兄弟が長屋王を除いて政治の実權を握るが、天然痘によって相次いで病死した。

問5 下線部Eに関連して、天平時代の作品として正しい組合せを次のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 『性靈集』 - 薬師寺吉祥天像
- b 『万葉集』 - 神護寺阿曇奈羅
- c 『凌雲集』 - 室生寺五重塔
- d 『懷風藻』 - 法隆寺夢殿

II 次の文章を読み、以下の問い(問6～問10)に答えなさい。

モンゴル帝国を建国したチンギス・ハーンの孫にあたるフビライ・ハーンは、都を大都(北京)に遷し、1271(文永8)年、国号に大元を加えた(元朝の成立)。このフビライ・ハーンが、たびたび国書を日本に送って朝貢を求めてきたが、鎌倉幕府は、これを拒絶。時の執権 **G** は、九州地方に所領を持つ東国御家人に向けて「異国の防衛」にあたるため九州へと向かうことを指示し、筑前、肥前の防衛を命じた。

1274(文永11)年と1281(弘安4)年の2度にわたってフビライ・ハーンは日本への遠征軍を送ったが、この軍勢は2度とも退けられた。この2度にわたる元軍の東襲を蒙古襲来、のちに **H** 元寇と呼ばれることになる。

いっぽう幕府は、襲来した元軍に勝利したものの領土や金銭を新たに得たわけではなかったため、武士たちに対して十分な恩賞を与えることが出来なかった。さらに2度の元軍の東襲を退けたものの、いつ3度目の襲来があるのか分からないなか、幕府は、御家人たちに対して、引き継ぎ九州北部の沿岸警備を命じた。九州防衛の継続的な負担を強いられるなか、御家人の窮乏は厳しさを増していく。そして、得宗専制政治の進展が御家人たちの疎外感を醸成させ、幕府への不信と不満を高めていったのであった。

問6 下線部Fに関連して、鎌倉幕府の成立について述べた次の文I～IIIについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- I 守護・地頭の任命権を獲得する。
- II 源頼朝が征夷大将軍に任命される。
- III 侍所を設置し、和田義盛を別当に任命した。

a I - II - III b II - I - III c III - I - II d I - III - II

問7 空欄Gに入る人名を次のa～dのうちから一つ選びなさい。

a 北条政村 b 北条時宗 c 北条長時 d 北条時頼

問8 下線部Hに関する説明として最も適当な記述を次のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 元軍は東路軍、江南軍に分かれて襲来し、博多に上陸した。元軍の集団戦法を前に、一騎討ち戦法を主とする日本軍は苦戦したが、暴風雨の被害により撤退した。これを文永の役と呼ぶ。
- b 元軍の集団戦法や「てつはう」と呼ばれた火器の前に日本軍は苦戦したが、事前の防備のため博多上陸を防ぐ。その後、元軍は交戦の結果を受けて退却した。これを文永の役と呼ぶ。
- c 元軍は対馬、壱岐の攻略の後、博多に上陸した。集団戦法や「てつはう」と呼ばれた火器の前に日本軍は苦戦するも、元軍は交戦の結果を受けて退却した。これを弘安の役と呼ぶ。
- d 元軍は東路軍、江南軍に分かれて襲来したが、日本軍による事前の防備のため、博多に上陸出来ず苦戦しているところ、暴風雨の被害により撤退した。これを弘安の役と呼ぶ。

問9 下線部Iに関して、蒙古襲来後の鎌倉幕府の政策として最も適切なものを次のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 鎮西探題を置いた。
- b 六波羅探題を置いた。
- c 異国警固番役を定めた。
- d 御成敗式目を定めた。

問10 下線部Jについて述べた次の文ア・イについて、その正誤の組合せとして正しいものを下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- ア 執権・連署・評定衆による合議が形骸化し、北条氏嫡流の得宗とその一門及び得宗の被官である御内人へと権力を集中させ、政治の実権を握ったのが得宗専制政治である。
- イ 霜月騒動で内管領の平頼綱が有力御家人の安達泰盛によって滅ぼされたが、安達泰盛もまた北条貞時によって排除され、得宗専制政治が確立した。

a ア 正 イ 正 b ア 正 イ 誤
c ア 誤 イ 正 d ア 誤 イ 誤

Ⅲ 次の文章を読み、以下の問い、(問 11～問 15) に答えなさい。

江戸幕府初期の対外政策は、キリスト教は禁じるが、貿易を推奨するというのが、寛文の幕府のキリスト教に対する警戒心がさらに深まり、1639(寛永16)年にポルトガル船の来航を禁止し、1641(寛永28)年には平戸にあったオランダ商館を長崎に移して、オランダ人と日本人との自由な交流を禁止した。こうして、ヨーロッパとの交渉は、長崎のオランダのみに限定されることになった。ただ、長崎には中国船も多数来航していた。そのため、中国人に対しても貿易管理とキリスト教伝播防止のため、長崎の町に M を設けて監視をした。

長崎貿易によって金・銀・銅の流出が激しく、幕府は対応を求められた。徳川家宣の信任を得て政治に参加した 新井白石 は、国内経済の立て直しを図ると同時に、長崎貿易にも対応した。

新井白石 の後、田沼意次 も長崎貿易振興を試みて、銅の代わりに「鉄物」を中国向けの輸出品にするなど、幕末に至るまで幕府は海外貿易の管理に苦心した。

問 11 下線部 K に関連して、江戸幕府の貿易政策について説明した次の文 A・イ について、その正誤の組合せとして正しいものを下の a～d のうちから一つ選びなさい。

- A ポルトガル商船による生糸の利益独占に対抗するため、特定の商人に輸入生糸を一括購入させる糸割符制度を導入した。
 イ 中国が海禁政策を採っていたため、貿易許可を得た船であることを証明するための「勘合」という信符を使用した勘合貿易が盛んだった。

- a ア 正 イ 正 b ア 正 イ 誤
 c ア 誤 イ 正 d ア 誤 イ 誤

問 12 下線部 L に関連して、江戸時代の蘭学・洋学についての説明として最も適当な記述を次の a～d のうちから一つ選びなさい。

- a 新井白石は、キリスト教布教のために日本に潜入して捕らえられたイタリア人宣教師シドッチを尋問して世界の地理・風俗を記録し、『海国兵談』『三國通覧図説』を著した。
 b 徳川吉宗は、キリスト教関係以外の漢訳洋書の輸入制限を緩和するとともに、前野良沢・杉田玄白に命じて蘭学を学ばせた。
 c フェートン号事件をきっかけに洋学者の渡辺崋山や高野長英は幕府の異国船打払令を批判したが、幕府は幕政批判の罪で2人を逮捕し処罰した。
 d 幕府は天文方に蚕書和解御書を置き、洋書の翻訳をさせていたが、幕末になると独立させて洋学所を建て、蕃書調所と改称し、洋学の教育機関となった。

問 13 空欄 M に入る語句を次の a～d のうちから一つ選びなさい。

- a 唐人屋敷 b 倭館 c 出島 d 蔵屋敷

問 14 下線部 N に関連して、新井白石の政策についての説明として最も適当な記述を次の a～d のうちから一つ選びなさい。

- a 慶長小判よりも金の含有量が約半分の正徳小判を鑄造して、元禄小判による混乱した貨幣流通を回復しようとした。
 b 服忌令をはじめとして、5代將軍・徳川綱吉の忠孝・礼儀を重んずる政治を受け継ぎ、生類憐れみの令も継続した。
 c 長崎貿易ではオランダ船は2艘・鎮高3000貫、中国船は30艘・鎮高6000貫に貿易額を制限していたが、この制限額を撤廃する海舶互市新例を定めた。
 d それまで宮家は3家しかなく、しかも多くの皇子・皇女が出家して門跡寺院に入室していたため、特例として閑院宮家を新たに創設して朝廷との協調関係を注いだ。

問 15 下線部 O に関連して、田沼意次の政策についての説明として最も適当な記述を次の a～d のうちから一つ選びなさい。

- a 銅座・人參座などの座を設けて専売制を実施するとともに、商品生産・流通を統制して市場を独占していた同業組合の「株仲間」を解散させた。
 b 商品経済の発展に伴い商人から運上・冥加を取り立てるとともに、増加する貨幣需要に対応するため、計数貨幣として便利な南鐐式朱銀を大量に鑄造した。
 c 下総の印藤沼・手賀沼の干拓に大坂などの商業資本を積極的に活用して取り組み、耕地拡大による年貢収入の増加に成功した。
 d 工藤平助「赤蝦夷風説考」に注目して2度にわたって近藤重藏らの調査隊を蝦夷地に派遣し、ロシアとの交易の可能性を調査させるとともに、蝦夷地を幕府直轄とする開発計画を進めようとした。

IV 次の文章を読み、以下の問い(問16～問20)に答えなさい。

江戸幕府が欧米諸国と結んだ不平等条約の改正は、明治の^p新政府にとって非常に重要な外交課題であった。新政府は、1871(明治4)年に^Qを大使とする使節団を欧米に派遣し、欧米諸国の国情視察にあたらせると同時に、条約改正の予備交渉を試みた。しかし、日本国内は未だ法体系が十分に整っておらず、近代的諸制度が確立していなかったため、ほとんど相手にされることはなかった。

その後、寺島宗則にはじまり、井上馨や^R大隈重信が、外相となって条約改正交渉を進めたものの、いずれも失敗に終わった。

あとを受けた青木周蔵がイギリスと対等合意を目指した条約改正交渉にあたり、ロシアの極東進出に警戒感を抱いていたイギリスは合意に傾いていた。しかし、1891(明治24)年、^S大津事件がおこり、青木が引責辞職したため改正交渉は再び頓挫する。

その後、第2次伊藤内閣のとき、東アジアにおける日本の地位を重くみくみたイギリスがあらためて条約改正に応じ、1894(明治27)年、^T日英通商航海条約が締結された。

問16 下線部Pに関連して、明治新政府の改革について述べた次の文I～IIIについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下のa～dのうちから一つ選びなさい。

- I 政体書の発布
- II 廃藩置県の実施
- III 徴兵令の公布

- a I - II - III
- b II - I - III
- c III - I - II
- d I - III - II

問17 空欄Qに入る人名を次のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 西郷隆盛
- b 岩倉具視
- c 三条美美
- d 徳川慶喜

問18 下線部Rに関連して、大隈重信に関わる出来事の説明として最も適切な記述を次のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 外相となった大隈重信は、鹿鳴館での舞踏会を開くなど欧化政策を推進したが、急速で皮相的な欧化熱や、外国人判事の任用を認めた条約改正案に対する世間の反発が強くなり、辞任に追い込まれた。
- b 開拓使官有物私下げ事件をきっかけに国会開設の勸諭を発するに至ったが、国会開設に反対した大隈重信は、明治14年の政変で下野した。
- c 大隈重信は、板垣退助とともに自由党と進歩党を合同して憲政党を結成し、第一次大隈内閣を組織したが、両党の対立が解消されず分裂し、内閣は4ヶ月で総辞職した。
- d 第二次大隈内閣のときに第一次世界大戦が勃発し、日英同盟を理由にドイツに宣戦布告をしてドイツが権益を有する山東省を占領するも、後のパリ講和会議では山東省の権益を全て放棄せられた。

問19 下線部Sに関する説明として最も適切な記述を次のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 日本訪問中のロシア皇太子が玄洋社の活動家に襲われて負傷した事件であり、政府は大逆罪を適用するよう司法に圧力をかけたが、大審院長児島惟謙はこれを拒否して司法権の独立を守った。
- b 日本訪問中のロシア皇太子が玄洋社の活動家に襲われて負傷した事件であり、政府は大逆罪を適用するよう司法に圧力をかけて、大審院長児島惟謙を辞職に追い込んだ。
- c 日本訪問中のロシア皇太子が警固の巡査に襲われて負傷した事件であり、政府は大逆罪を適用するよう司法に圧力をかけたが、大審院長児島惟謙はこれを拒否して司法権の独立を守った。
- d 日本訪問中のロシア皇太子が警固の巡査に襲われて負傷した事件であり、政府は大逆罪を適用するよう司法に圧力をかけ、大審院長児島惟謙を辞職に追い込んだ。

問20 下線部Tに関して、このときの外務大臣と改正内容について正しい組合せを次のa～dのうちから一つ選びなさい。

- a 陸奥宗光 - 領事裁判権の撤廃
- b 陸奥宗光 - 関税自主権の回復
- c 小村寿太郎 - 領事裁判権の撤廃
- d 小村寿太郎 - 関税自主権の回復

V 以下の問い(問21・問22)について、各問の指示に従って解答用紙の解答記入欄に記述しなさい。

問21 1221(承久3)年、後鳥羽上皇が北条義時追討の院宣を発して、討幕の兵を挙げた「承久の乱」がおきたが、後鳥羽上皇は敗北する。この承久の乱後の動きについて、120文字前後で説明しなさい。

問22 1925(大正14)年に、加藤高明内閣のもとで成立した普通選挙法について、ともに成立した法律にも言及し、120文字前後で説明しなさい。